

富山県民の笑いに対する意識調査

A Survey for the Laughter of Toyama Prefectural

大谷 孝行

OTANI Takayuki

抄録

本稿は、筆者が2013年9月から2015年2月までに行った笑いに関する講演の際に行ったアンケートを集計したものである。アンケートの質問項目は、「年齢」、「性別」、「出身地」、「日頃よく笑うか」、「最近3日間で笑った回数」、「笑うためによく利用するもの」、「好きなお笑い芸人や喜劇俳優」、「笑いに対するイメージ」、「好きな笑いの分野」、「富山県民のノリ」、「最近一番大笑いをしたこと」の11項目である。アンケート結果からは、以下のことがわかった。10代の若い人たちが他の年代に比べて、また女性の方が男性よりもよく笑うこと。どの年代においても人との会話の中で笑いが生まれること。テレビなどによく登場する芸人が支持されていること。笑いは健康によく、人生を豊かにする必要不可欠な要素と感じられていること。10代の若者たちが富山県民はノリが悪くないと思う一方で、年配の人は富山県民のノリが悪いと感じていることも明らかとなった。

キーワード

笑い、お笑い芸人、ノリ、富山県民、健康

はじめに

筆者は約十年前から笑いに関する研究を始め、ここ数年は富山県内で笑いに関する講演を依頼されることが多い。講演の際には、聴講者の笑いについての意識を調査するために簡単なアンケートに協力していただいている。当論文はそのアンケート結果の集計であり、富山県民の笑いに対する意識を明らかにすることが本稿の目的である。

1. アンケート概要

アンケート対象者は、筆者が富山県内で行った笑いに関する講演を聴講された方々であり、講演開始前に5分ほどの時間を割いてアンケート回答にご協力いただいた。講演内容による影響を避けるために、アンケートは講演開始前に実施した。

今回のアンケートの回答は、2013年9月から2015年2月までに、以下の主催で行われた講演の際に得られたものである。()内は講演実施日。

富山県高岡厚生センター (2013年9月2日)、富山市保健所八尾保健福祉センター(2013年9

2. アンケート結果

アンケート回答数は 723 名。Q1 から Q11 までのアンケート結果を以下に掲げる。

(1) 「年齢」

Q1 の年齢については以下の通りである (表 1)。今回のアンケートは筆者の講演時に実施されており、年齢層は高校生、短大生、専門学校生などを中心にした層と、50 代以上の年齢層に集中している。なお、() 内のパーセントの数字は小数点第一位を四捨五入している。

表 1

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
人数	113 (16%)	12 (2%)	18 (2%)	58 (8%)	126 (17%)	237 (33%)	159 (22%)

(2) 「性別」

Q2 の性別は次の通りである(表 2-1)。講演を受講する方に女性が多いという特徴を反映した結果になっており、男女比は 3 : 7 であった。

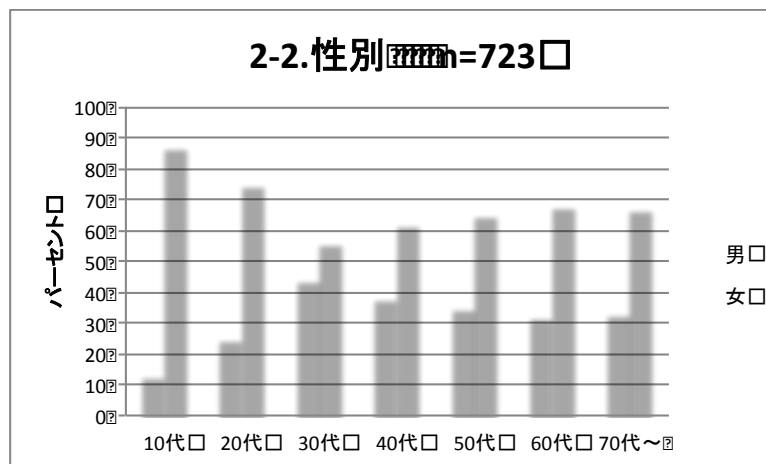
表2-1

	男	女
人数	220 (30%)	503 (70%)

また、男女比をそれぞれの年代で見ると以下の通りである(表 2-2、グラフ 2-2)。10 代では、男女比が 13 : 87 と圧倒的に女性が多く、50 代以上では男女比がおおよそ 1 : 2 となっている。

表2-2

	男	女
10代	15 (13%)	98 (87%)
20代	3 (25%)	9 (75%)
30代	8 (44%)	10 (56%)
40代	22 (38%)	36 (62%)
50代	44 (35%)	82 (65%)
60代	76 (32%)	161 (68%)
70代～	52 (33%)	107 (67%)



(3) 「出身地」

Q3 の出身地であるが、富山県内の講演でアンケートを実施したために、富山県内出身者が多い (表 3-1)。

表3-1

	富山県	富山県以外	無回答
人数	637 (88%)	84 (12%)	2 (0%)

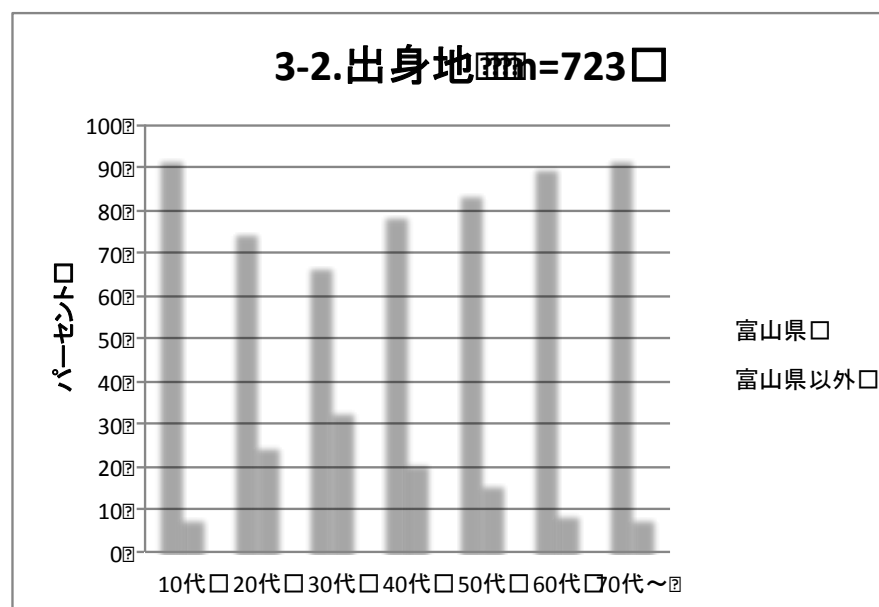
県外出身者 84 名の出身地の内訳は以下の通りである (五十音順、カッコ内の数字は人数)。

愛知県(4)、青森県(1)、秋田県(2)、石川県(18)、茨城県(1)、愛媛県(1)、大阪府(4)、岡山県(2)、沖縄県(1)、神奈川県(4)、岐阜県(3)、京都府(1)、熊本県(1)、埼玉県(2)、千葉県(1)、東京都(2)、長野県(2)、新潟県(3)、兵庫県(3)、福井県(14)、北海道(3)、三重県(5)、山形県(2)、無記入(3)。

それぞれの年代で出身地の県内外比率を見ると、10代、60代、70代以上で県内出身者：県外出身者の比は、およそ 9 : 1 となっている(表 3-2、グラフ 3-2)。

表3-2

	富山県	富山県以外
10代	104 (92%)	9 (8%)
20代	9 (75%)	3 (25%)
30代	12 (67%)	6 (33%)
40代	46 (79%)	12 (21%)
50代	106 (84%)	20 (16%)
60代	214 (90%)	21 (9%)
70代～	146 (92%)	13 (8%)



また出身地と性別を合わせたものが次の表 3-3 である。富山県出身者における男女比は 184 : 453 で 29% : 71%、富山県以外の出身者における男女比は 36 : 48 で 43% : 57%。男性においては県内出身者：県外出身者=84 : 16、女性における県内出身者：県外出身者=90 : 10 であった。

表3-3

	富山県	富山県以外
男	184 (84%)	36 (16%)
女	453 (90%)	48 (10%)

(4) 「日頃よく笑うか」

Q4「日頃よく笑う方か」への回答は次の通りだった(表4-1)。自分はよく笑う方であると回答した人が723名中521名、72%という結果であった。

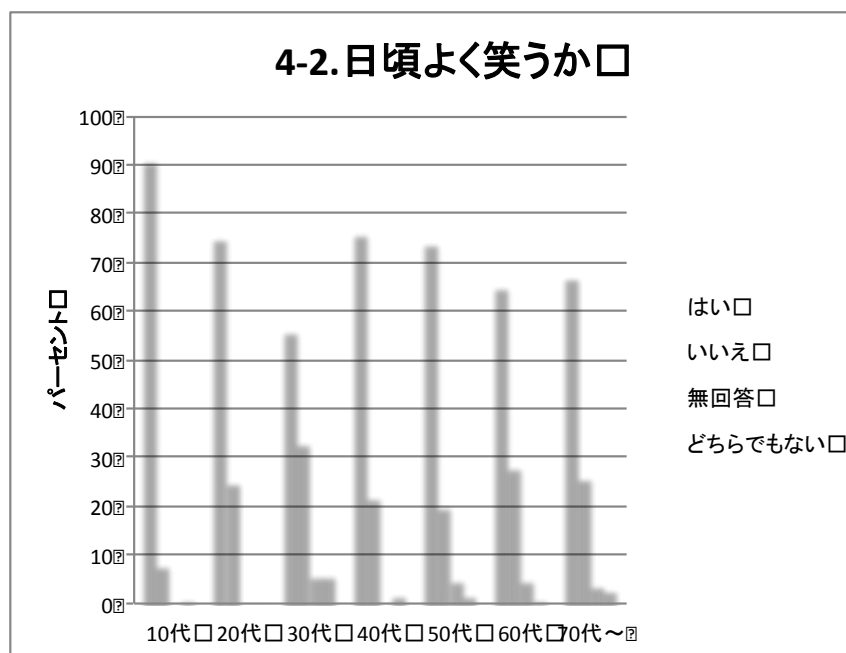
表4-1

	はい	いいえ	無回答	どちらでもない
人数	521 (72%)	165 (23%)	25 (3%)	12 (2%)

これを年齢別に見ると以下のようになる(表4-2、グラフ4-2)。()内のパーセントは、それぞれの年代において当該項目の占める率を表した数字である。日頃よく笑うと回答している年代は10代で91%と突出して高く、20代、40代、50代では約75%の人が「はい」と回答している。60代、70代ではおよそ65%の人がよく笑うと回答している。今回、30代で「はい」と回答する人の割合が56%と、最も低い数値となった。

表4-2

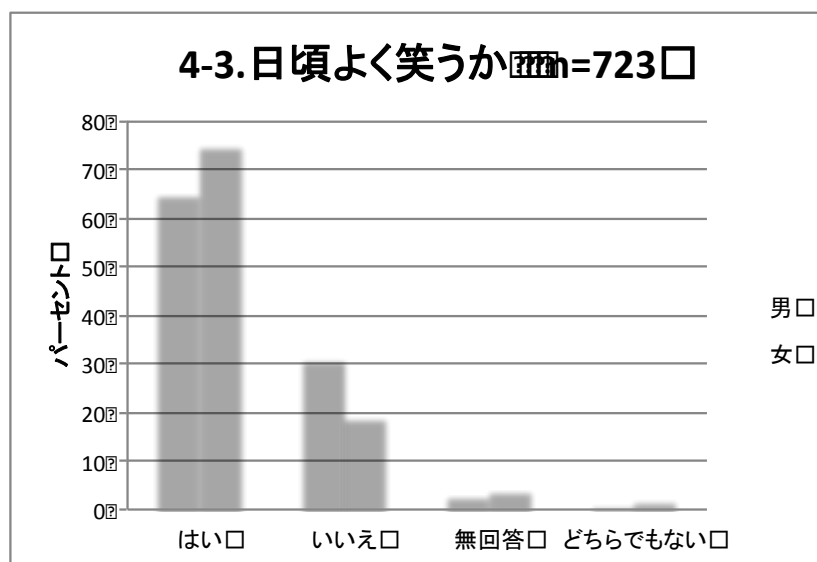
	はい	いいえ	無回答	どちらでもない
10代	103 (91%)	9 (8%)	0 (0%)	1 (1%)
20代	9 (75%)	3 (25%)	0 (0%)	0 (0%)
30代	10 (56%)	6 (33%)	1 (6%)	1 (6%)
40代	44 (76%)	13 (22%)	0 (0%)	1 (2%)
50代	93 (74%)	25 (20%)	6 (5%)	2 (2%)
60代	155 (65%)	67 (28%)	12 (5%)	3 (1%)
70代～	107 (67%)	42 (26%)	6 (4%)	4 (3%)



日頃よく笑うかを、性別との関係で見たものが次の表 4-3、グラフ 4-3 である。男性においては「はい」と回答したものが 65%であったのに対して、女性においては「はい」と回答したものが 75%であり、女性の方が男性よりも日頃よく笑っていると感じていることがわかる。

表4-3

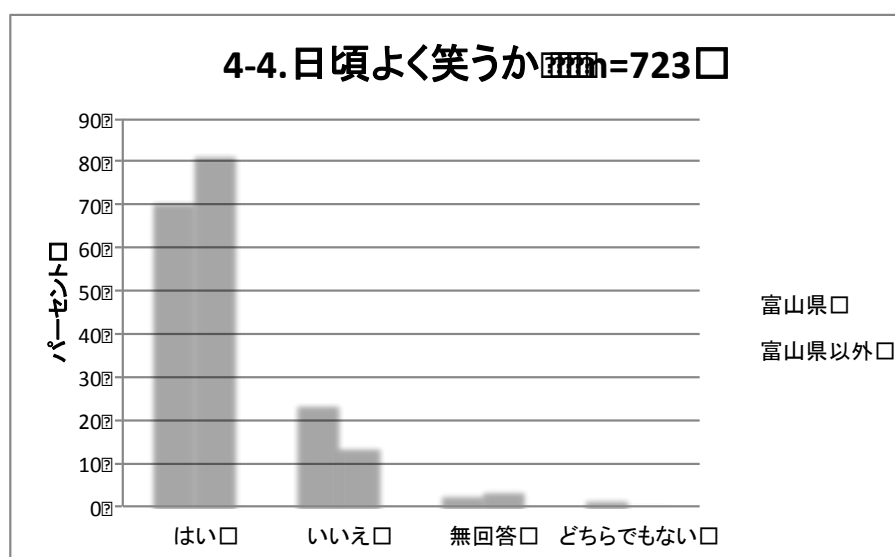
	はい	いいえ	無回答	どちらでもない
男	142 (65%)	69 (31%)	7 (3%)	2 (1%)
女	379 (75%)	96 (19%)	18 (4%)	10 (2%)



さらに、日頃よく笑うかを、富山県出身・富山県外出身との関係で見たものが次の表 4-4、グラフ 4-4 である。富山県出身者よりも、富山県外出身の方が、「日頃よく笑う」と回答している人の比率が高いという結果になっている。

表4-4

	はい	いいえ	無回答	どちらでもない
富山県	452 (71%)	152 (24%)	21 (3%)	12 (2%)
富山県以外	69 (82%)	12 (14%)	3 (4%)	0 (0%)



(5) 「この3日間で何回笑ったか」

Q5 「この3日間で何回笑ったか」についての回答は以下の通りだった(表5-1)。10回以上笑ったと回答しているものが全体の半数強の53%、次に多い回答が6回～4回の23%という結果であった。

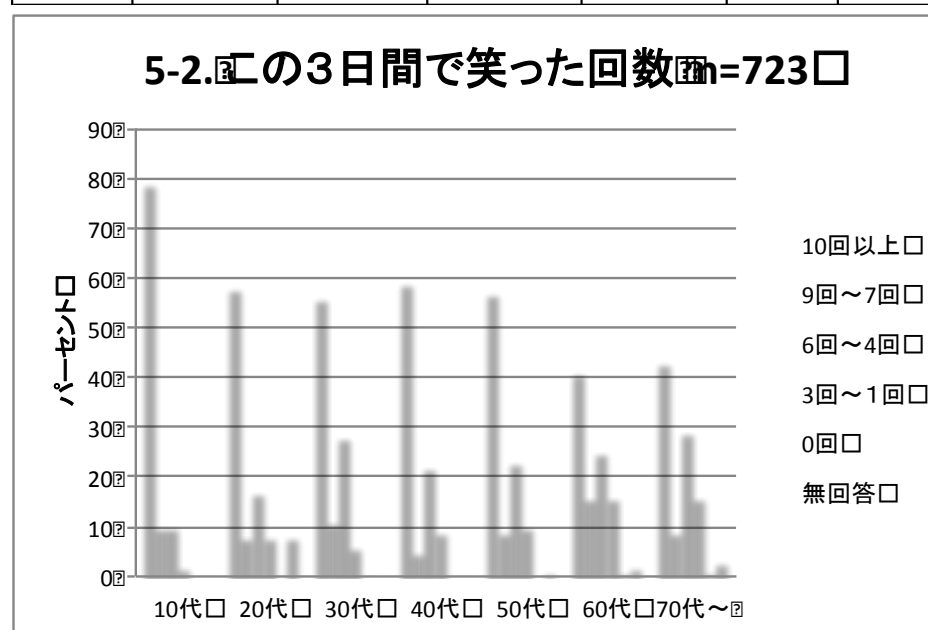
表5-1

	10回以上	9回～7回	6回～4回	3回～1回	0回	無回答
人数	380 (53%)	81 (11%)	165 (23%)	84 (12%)	3 (0%)	10 (1%)

「この3日間で笑った回数」を各年代別に表したものが次の表5-2とグラフ5-2である。()内のパーセントの数値は、各年代において当該項目が占める割合を表している。

表5-2

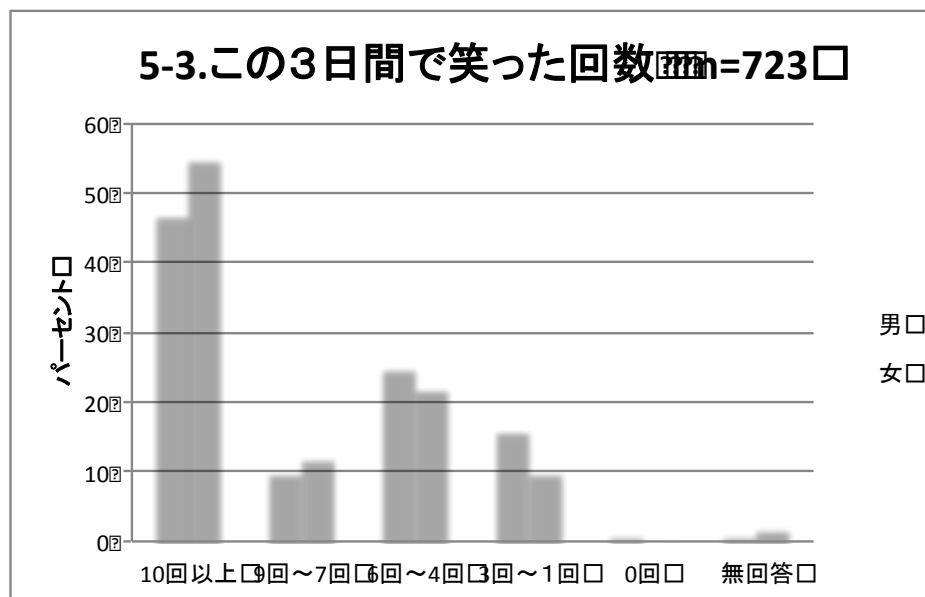
	10回以上	9回～7回	6回～4回	3回～1回	0回	無回答
10代	89 (79%)	11 (10%)	11 (10%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)
20代	7 (58%)	1 (8%)	2 (17%)	1 (8%)	0 (0%)	1 (8%)
30代	10 (56%)	2 (11%)	5 (28%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)
40代	37 (59%)	3 (5%)	13 (22%)	5 (9%)	0 (0%)	0 (0%)
50代	72 (57%)	11 (9%)	29 (23%)	13 (10%)	0 (0%)	1 (1%)
60代	97 (41%)	38 (16%)	59 (25%)	37 (16%)	2 (1%)	4 (2%)
70代～	68 (43%)	15 (9%)	46 (29%)	25 (16%)	1 (1%)	4 (3%)



次に、「この3日間で笑った回数」を男女の別で表したものが以下の表5-3、グラフ5-3である。男性においては47%が10回以上笑うと回答しているのに対し、女性においては55%が10回以上笑うと答えている。10回以上、9回～7回、の両項目において、女性の方が男性よりも高い比率であることがわかる。

表5-3

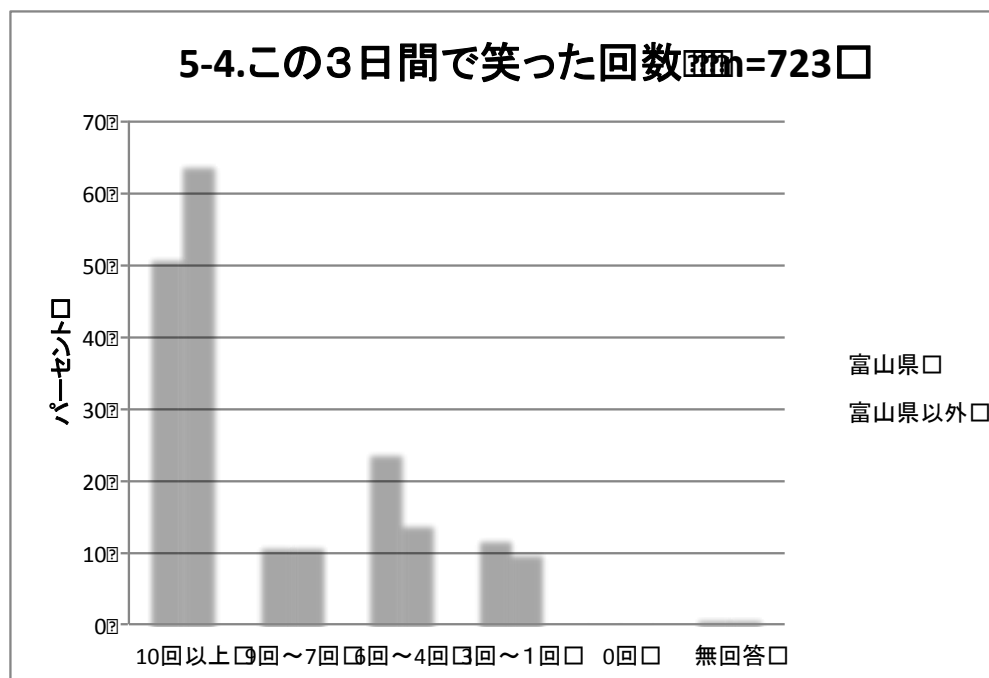
	10回以上	9回～7回	6回～4回	3回～1回	0回	無回答
男	103 (47%)	22 (10%)	55 (25%)	36 (16%)	2 (1%)	2 (1%)
女	277 (55%)	59 (12%)	110 (22%)	48 (10%)	1 (0%)	8 (2%)



次に「この3日間で笑った回数」と出身地との関係を表したものが表5-4、グラフ5-4である。富山県出身者においては、51%が10回以上笑う、11%が9回~7回笑うと回答している。それに対し、富山県以外の出身者においては、10回以上笑うと回答している者が64%であり、富山県出身者に比べて10ポイント以上高い数値となっている。

表5-4

	10回以上	9回~7回	6回~4回	3回~1回	0回	無回答
富山県	326 (51%)	72 (11%)	152 (24%)	75 (12%)	3 (0%)	9 (1%)
富山県以外	54 (64%)	9 (11%)	12 (14%)	8 (10%)	0 (0%)	1 (1%)



Q5「この3日間で笑った回数」に対して、0回と回答した人に対する自由記述欄で、笑わなかった理由を聞いている。回答数3という少数意見ではあるが紹介すると、「最近ある人が死亡」(1)、「楽しい事がない」(1)というものであった。()内は回答者数。

(6) 「笑うためにあなたがよく利用するもの」

Q6「笑うためによく利用するものは何か」についての回答は以下の通りである(表6-1)。()内の数字は、回答者全体のうち当該項目を利用している人が何パーセントいるかを表している。複数回答であるために()内の数字を合計しても100にはならない。人との会話で笑うことが多く、次にテレビを見て笑うという回答が多かった。

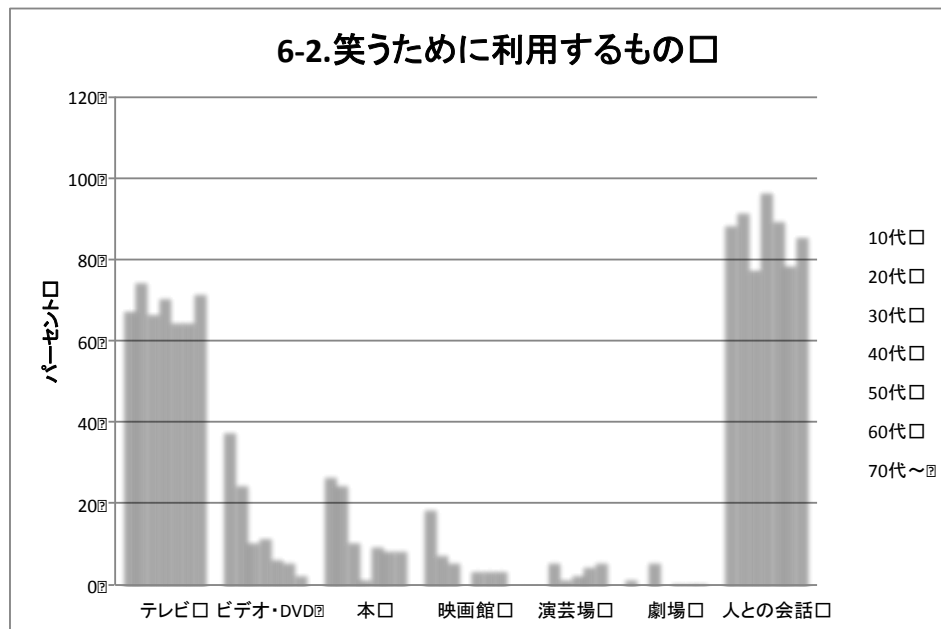
表6-1

	テレビ	ビデオ・DVD	本	映画館	演芸場	劇場	人との会話
人数	489 (68%)	84 (12%)	87 (12%)	43 (6%)	27 (4%)	8 (1%)	619 (86%)

次に「笑うために利用するもの」を、各年代別に見たものが以下の表6-2、グラフ6-2である。「人との会話」や「テレビ」で笑うという回答は、年代を問わずに高い数値であることがわかる。

表6-2

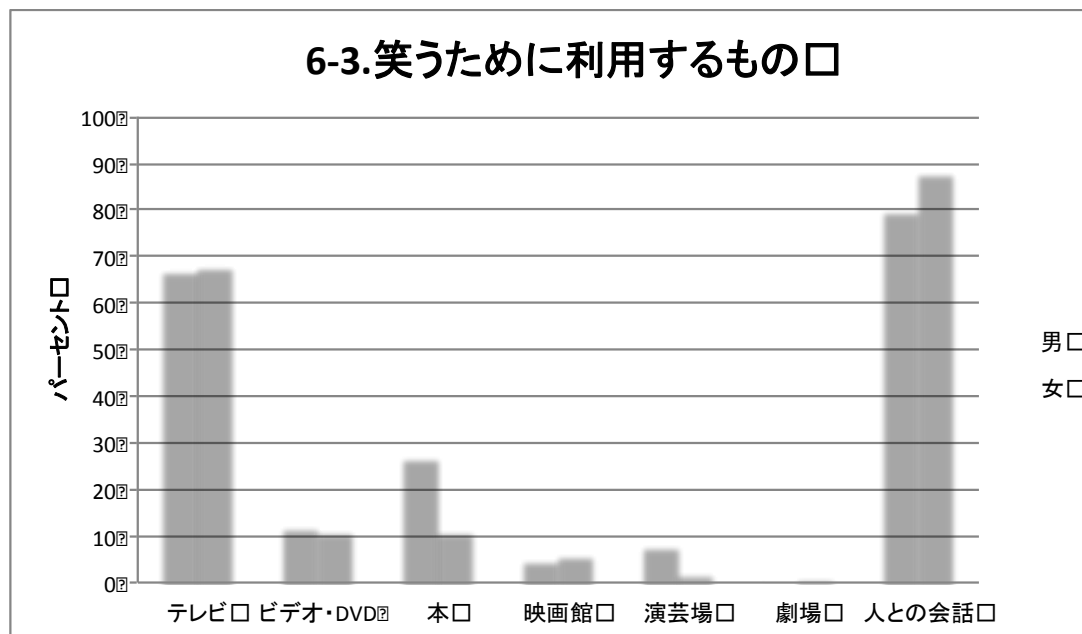
	テレビ	ビデオ・DVD	本	映画館	演芸場	劇場	人との会話
10代	77 (68%)	43 (38%)	31 (27%)	21 (19%)	0 (0%)	2 (2%)	101 (89%)
20代	9 (75%)	3 (25%)	3 (25%)	1 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (92%)
30代	12 (67%)	2 (11%)	2 (11%)	1 (6%)	1 (6%)	1 (6%)	14 (78%)
40代	41 (71%)	7 (12%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	56 (97%)
50代	82 (65%)	9 (7%)	13 (10%)	5 (4%)	4 (3%)	1 (1%)	113 (90%)
60代	153 (65%)	15 (6%)	22 (9%)	9 (4%)	12 (5%)	2 (1%)	187 (79%)
70代～	115 (72%)	5 (3%)	15 (9%)	6 (4%)	9 (6%)	2 (1%)	137 (86%)



次に「笑うために利用するもの」を、男女別に表したものが表6-3、グラフ6-3である。男性が女性よりも多く利用しているものは「本」、「演芸場」という回答結果であり、逆に女性の方が男性よりも多く利用している回答項目は「人との会話」であった。

表6-3

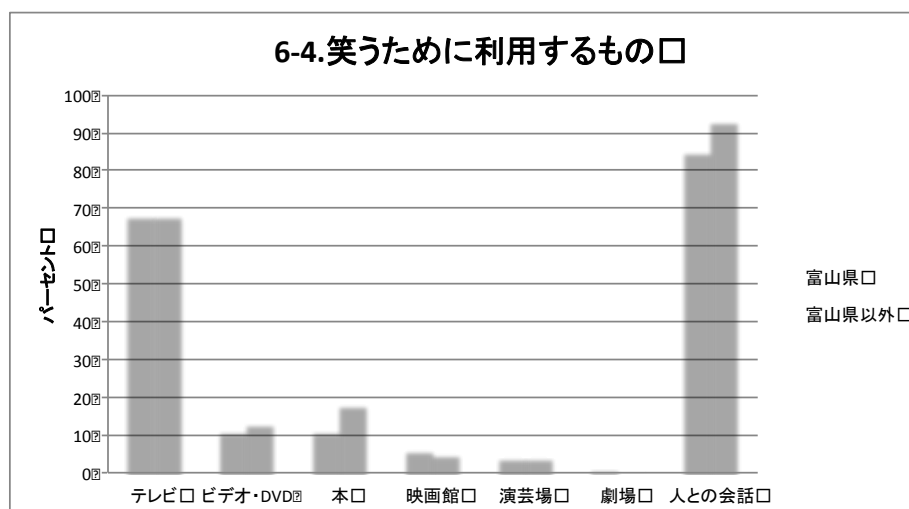
	テレビ	ビデオ・DVD	本	映画館	演芸場	劇場	人との会話
男	147 (67%)	27 (12%)	30 (27%)	12 (5%)	17 (8%)	1 (0%)	175 (80%)
女	342 (68%)	57 (11%)	57 (11%)	31 (6%)	10 (2%)	7 (1%)	444 (88%)



「笑うために利用するもの」と出身地の関係を表したものが以下の表 6-4、グラフ 6-4 である。富山県以外出身者は、富山県出身者に比べ、「本」と「人との会話」によって笑うという回答率が高い結果になっている。

表6-4

	テレビ	ビデオ・DVD	本	映画館	演芸場	劇場	人との会話
富山県	430 (68%)	73 (11%)	72 (11%)	39 (6%)	24 (4%)	8 (1%)	539 (85%)
富山県以外	57 (68%)	11 (13%)	15 (18%)	4 (5%)	3 (4%)	0 (0%)	78 (93%)



Q6「笑うために利用するもの」に関して、選択肢以外の「その他」で自由記述として以下の回答があった。回答数の多いものから順に挙げると以下の通りである。()内は回答数。

ラジオ(4)、ペット(4)、孫と遊ぶ(3)、新聞(3)、アニメ(3)、インターネット(3)、子どもと遊ぶ(2)、スポーツ(2)、SNS(2)、カルチャースクール(1) (以下回答数1名)、写真、市民大学講座、職場、携帯電話、イタズラ、音楽、踊り、変わった視点を探して。

(7) 「好きなお笑い芸人や喜劇俳優」

Q7「好きなお笑い芸人や喜劇俳優」は自由記述であり、複数回答である。以下に回答数の多いものから順に挙げる。()内の数字は回答数であり、同数の場合は五十音順。

明石家さんま(43)、綾小路きみまろ(31)、立川志の輔(23)、笑点メンバー(17)、タカアンドトシ(16)、笑福亭鶴瓶(14)、ダウンタウン(12)、クリームシチュー(10)、桂歌丸(9)、桂文枝(三枝)(9)、タモリ(8)、流れ星(8)、NON STYLE(8)、ビートたけし(8)、コロケ(6)、三遊亭円楽(6)、中川家(6)、吉本興業・吉本新喜劇メンバー(6)、陣内智則(5)、日本エレキテル連合(5)、有吉弘行(4)、COWCOW(4)、サンドイッチマン(4)、渥美清(3)、桂文珍(3)、小藪千豊(3)、志村けん(3)、高田純次(3)、チャップリン(3)、爆笑問題(3)、藤山直美(3)、松本人志(3)、森山中(3)、雨上がり決死隊(2)、内村光良(2)、ウーマンラッシュアワー(2)、オリエントラジオ(2)、オール阪神巨人(2)、ケーシー高峰(2)、しゃべくり007のメンバー(2)、立川談志(2)、所ジョージ(2)、ドブロック(2)、友近(2)、とんねるず(2)、ナイツ(2)、ナインティナイン(2)、萩本欽一(2)、8.6秒バズーカー(2)、母心(2)、パンサー(2)、久本雅美(2)、宮川大助花子(2)、宮迫博之(2)、柳家小三治(2)、よみこ(2)、ローワン・アトキンソン(2)、東八郎(1) (以下、回答数1の数字略)、安住紳一郎(アナウンサー)、あばれる君、アンタッチャブル、伊東四朗、今いくよくるよ、今田耕司、イモトアヤコ、植木等、大泉洋、大久保佳代子、太田光、大村崑、オカザイル、岡村隆史、小沢昭一、オードリー、桂三度(世界のナベアツ)、桂枝雀、桂米朝、桂米丸、狩野英孝、かまいたち、クマムシ、劇団ひとり、小堺一機、児嶋一哉、ゴージャス、小林賢太郎、コント55号、さまぁ〜ず、設楽統、清水ミチコ、ジミー大西、ジム・キャリー、ジャングルポケット、笑福亭仁鶴、千鳥、ちゅうえい、TKO、出川哲朗、テツ and トモ、デーブスペクター、トータルテンボス、ドリフターズ、鼠先輩、ネプチューン、バカリズム、花紀京、林家木久扇、林家三平(初代)、林家たい平、ハライチ、原西孝幸、ハリセンボン、B&B、ヒロシ、ふかわりょう、フットボールアワー、ふなっしー、ブラックマヨネーズ、ぶんぶんボウル、堀内健、前川清(歌手)、マツコデラックス、三谷幸喜、宮川大輔、村上ショージ、もう中学生、森繁久彌、山口智充、山崎弘也、ユースケ・サンタマリア、ゆっぺい、横山やすし・西川きよし、ラバーガール、ロザン、我が家、和牛、渡辺直美、笑い飯。

(8) 「笑いは・・・」の「・・・」に真っ先に思いつく言葉

Q8「笑いは・・・」の「・・・」に入る言葉を考えるという自由記述では以下のような結果となった。回答数の多いものから順に挙げる。()内の数字は回答数で複数回答あり。

健康によい・健康の源(176)、元気(の源)(64)、幸せ(の源)(31)、楽しい・楽しくする(26)、福を呼ぶ(23)、ストレス解消(23)、心がなごむ・心の癒し(19)、人生(気持ち・周り)を明るくする(18)、心の栄養素・ビタミン(18)、エネルギー・力・生命力・命(16)、心の健康(15)、人・人生(13)、長生きの秘訣(12)、笑顔(11)、心を豊かにする・心のうるおい・人生を豊かに(10)、大切・必要(10)、心身の(健康の)バロメーター(8)、百薬の長(7)、素敵・すばらしい(6)、脳の活性化(5)、

リラックス(5)、心のリフレッシュ・気分転換(5)、人とのつながり・人をつなぐ・縁(5)、宝 (5)、コミュニケーション(5)、潤滑油・生活の潤い(5)、ボケ防止(4)、免疫力を高める(4)、若さを保つ(4)、は・は・は(3)、家庭の平和(3)、人生の喜び (3)、嫌なことを忘れる(3)、ユーモア(3)、心の掃除・洗濯(3)、シワのもと(3)、心(3)、おもしろい(3)、神 (様) (3)、文化(3)、ゆとり・余裕(2)、人を楽しくする(2)、日常(2)、人との会話(2)、人間関係をよくする(2)、ほっと一息(2)、吉本 (劇場) (2)、センス(2)、皮肉(2)、生きがい(2)、笑い(2)、感情(2)、NK 細胞を活性化(2)、はいあがれ(1)(以下、回答数の1を省略)、自分の体をつくる、人生の調味料、ふ・ふ・ふ、丸、武器、エスプリ、印象、天使、豊かな気持ちから、涙、場をなごませる、心を空っぽにする、感謝、あほけ、平和、あいさつ、緊張と緩和から、天才、楽しむこと、家庭の中から、人を美しくする、からだの泉、心の泉、思いやり、ドーパミンを出す、人生の花、仲間との語り、人の集まる所、心の呼吸、人を呼ぶ、自信につながる、自由、必要不可欠な無駄、お腹がよじれる、自然に、下ネタ、priceless、タイミング、腹筋を鍛える、嘲笑ではない、解放、伝染する、私。

(9)「好きな笑いの分野」

Q9「好きな笑いの分野」については以下の結果となった(表9-1)。()内の数字は、回答者全体のうちで当該項目を回答した者のパーセントであり、複数回答のため合計しても100にはならない。最も多かった回答が漫才、次にコント、落語の順であった。

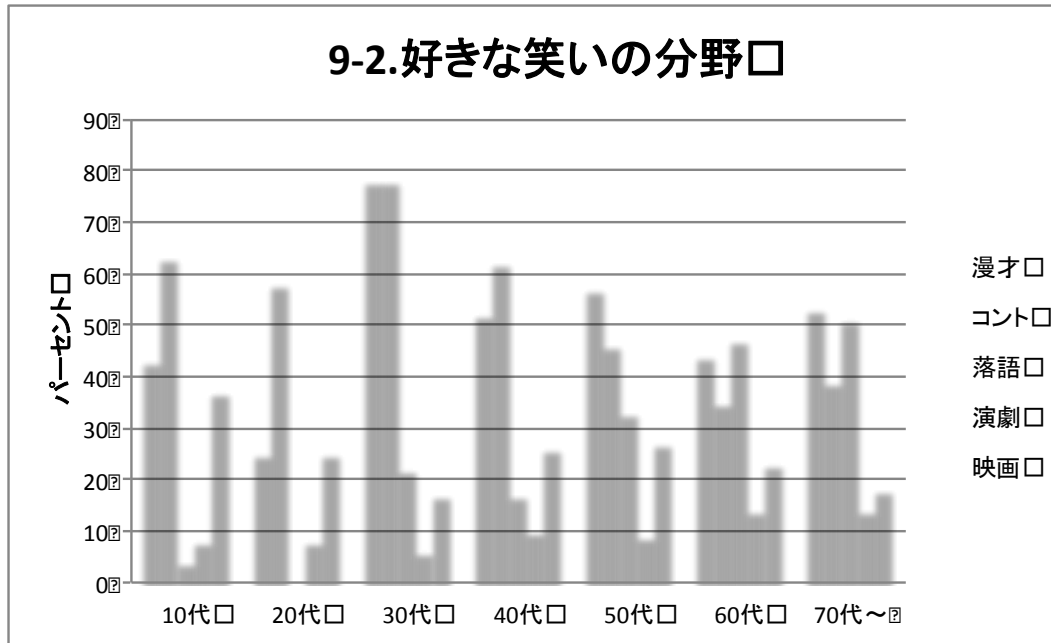
表9-1

	漫才	コント	落語	演劇	映画
人数	357 (49%)	331 (46%)	251 (35%)	83 (11%)	179 (25%)

「好きな笑いの分野」を、各年代別に見たものが次の表9-2、グラフ9-2である。()内の数字はそれぞれの年代において、当該項目を好きと回答した人の比率を表しており、複数回答のためパーセントの合計は100にならない。30代で漫才、コントが好きだと回答した人がともに78%と高かった。その他では、10代のコント(63%)、40代のコント(62%)、20代のコント(58%)、50代の漫才(57%)が高い数値であった。落語については、年代の若い層では好きと回答しているものが少なく、落語が好きな年代は50代以降で、年代が上がれば落語を好きと回答する比率も高くなっていることがわかる。

表9-2

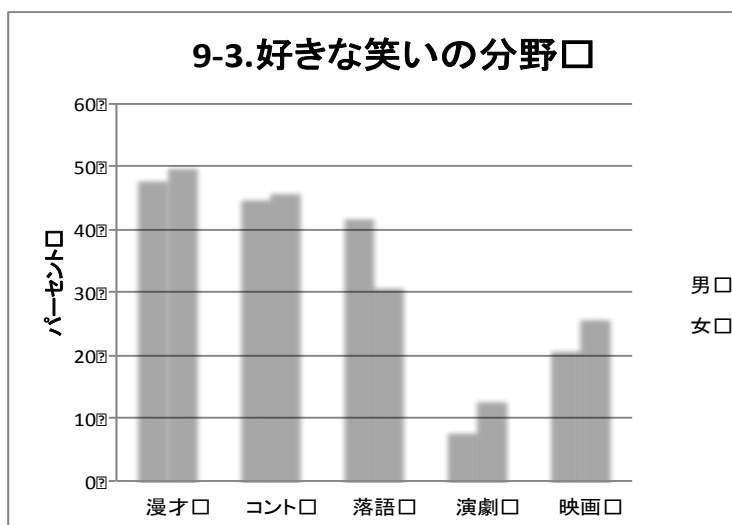
	漫才	コント	落語	演劇	映画
10代	49 (43%)	71 (63%)	4 (4%)	9 (8%)	42 (37%)
20代	3 (25%)	7 (58%)	0 (0%)	1 (8%)	3 (25%)
30代	14 (78%)	14 (78%)	4 (22%)	1 (6%)	3 (17%)
40代	30 (52%)	36 (62%)	10 (17%)	6 (10%)	15 (26%)
50代	72 (57%)	58 (46%)	41 (33%)	11 (9%)	34 (27%)
60代	104 (44%)	83 (35%)	111 (47%)	32 (14%)	54 (23%)
70代～	85 (53%)	62 (39%)	81 (51%)	23 (14%)	28 (18%)



「好きな笑いの分野」を男女別に見たものが次の表 9-3、グラフ 9-3 である。()内の数字は男女それぞれにおいて、当該項目を好きと回答したものの比率を表しており、複数回答のためパーセントの合計は 100 にならない。漫才とコントにおいては、好きと回答した比率は男女間で大きな差はない。落語については、男性の方が女性よりも好きだと回答した比率が 10 ポイント以上高かった。一方で、演劇と映画については、女性の方が男性よりも好きだと回答した比率が 5 ポイント高いという結果になった。

表9-3

	漫才	コント	落語	演劇	映画
男	106 (48%)	100 (45%)	93 (42%)	18 (8%)	47 (21%)
女	251 (50%)	231 (46%)	158 (31%)	65 (13%)	132 (26%)

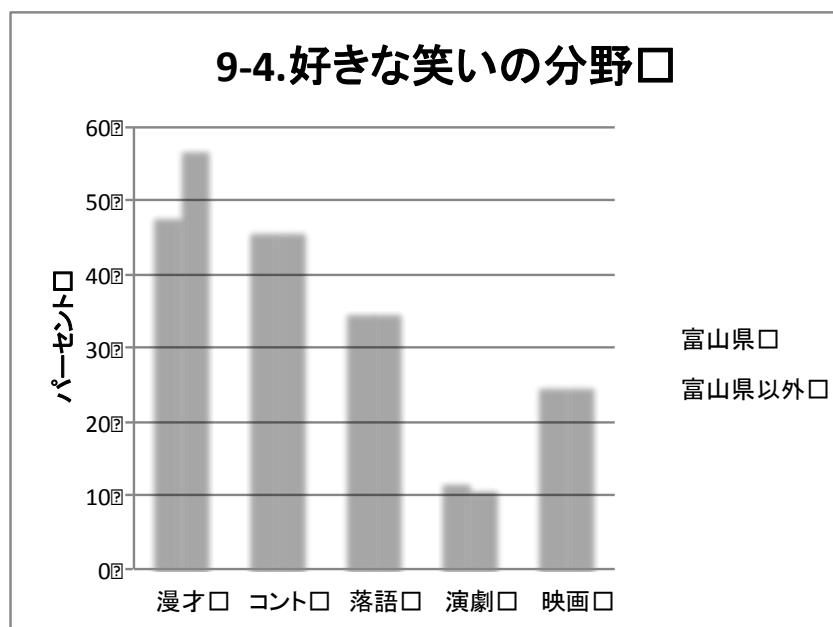


「好きな笑いの分野」と出身地の関係を示したのが次の表 9-4、グラフ 9-4 である。()内の数字はそれぞれの出身地において、当該項目を好きと回答したものの比率を表しており、複数回答のためパーセントの合計は 100 にならない。富山県出身者と富山県外出身者との間で差が見られ

たのは漫才で、県外出身の方が富山県出身者よりも好きと回答した人の比率が9ポイント高かった。それ以外の分野では、富山県出身者と県外出身者との間で差は見られなかった。

表9-4

	漫才	コント	落語	演劇	映画
富山県	307 (48%)	290 (46%)	222 (35%)	74 (12%)	158 (25%)
富山県以外	48 (57%)	39 (46%)	29 (35%)	9 (11%)	21 (25%)



Q9「好きな笑いの分野」に関して、選択肢以外の「その他」の自由記述として以下の回答があった。回答数の多いものから順に挙げると以下の通りである。()内は回答数。

人との会話(25)、友人との会話(6)、アニメ(4)、生活の中で(3)、本(2)、バラエティ(2)、孫との会話(1) (以下、回答数の1を省略)、普通に話す芸、子どもの笑顔、歌、人間観察、テレビドラマ。

(10)「富山の人にはノリが良くないと思うか」

Q10「富山の人にはノリが良くないと思うか」に対する回答は以下の通り。「ノリが良くないと思う」という回答が50%、「そう思わない」という回答が41%であった。

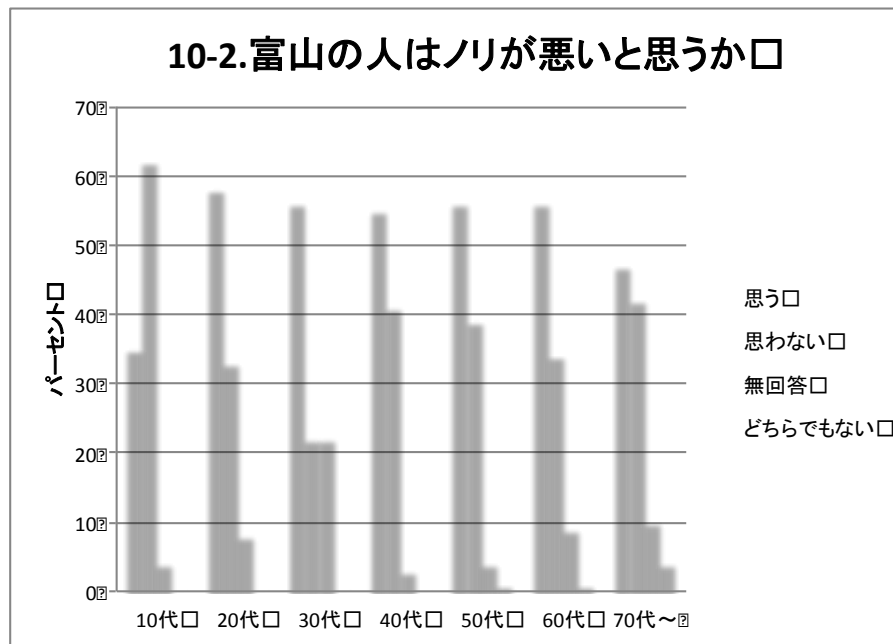
表10-1

	思う	思わない	無回答	どちらでもない
人数	365 (50%)	297 (41%)	54 (7%)	7 (1%)

Q10「富山の人にはノリが悪いと思うか」を年代別に表したものが次の表10-2、グラフ10-2である。10代では「そう思わない」という回答が「そう思う」よりも多いが、20代以降の年代では回答が逆転しているのが大きな特徴である。

表10-2

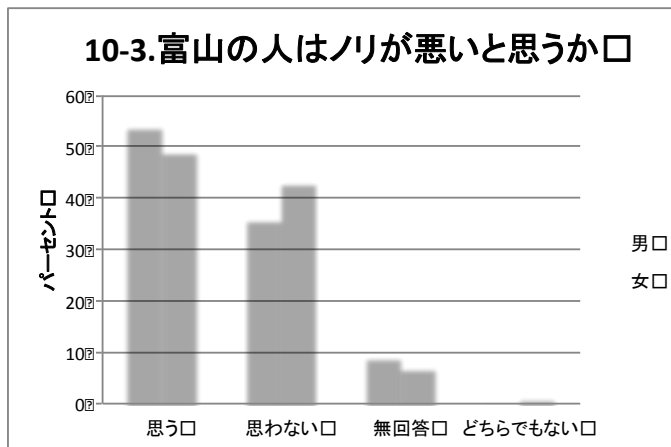
	思う	思わない	無回答	どちらでもない
10代	39 (35%)	70 (62%)	4 (4%)	0 (0%)
20代	7 (58%)	4 (33%)	1 (8%)	0 (0%)
30代	10 (56%)	4 (22%)	4 (22%)	0 (0%)
40代	32 (55%)	24 (41%)	2 (3%)	0 (0%)
50代	71 (56%)	49 (39%)	5 (4%)	1 (1%)
60代	132 (56%)	80 (34%)	22 (9%)	3 (1%)
70代～	74 (47%)	66 (42%)	16 (10%)	3 (4%)



Q10「富山の人にはノリが悪いと思うか」を男女別に見たものが以下の表 10-3、グラフ 10-3 である。特徴的なのは、「そう思う」と回答した比率は女性よりも男性が高く、その逆に「そう思わない」と回答した比率は男性よりも女性が高かった点である。

表10-3

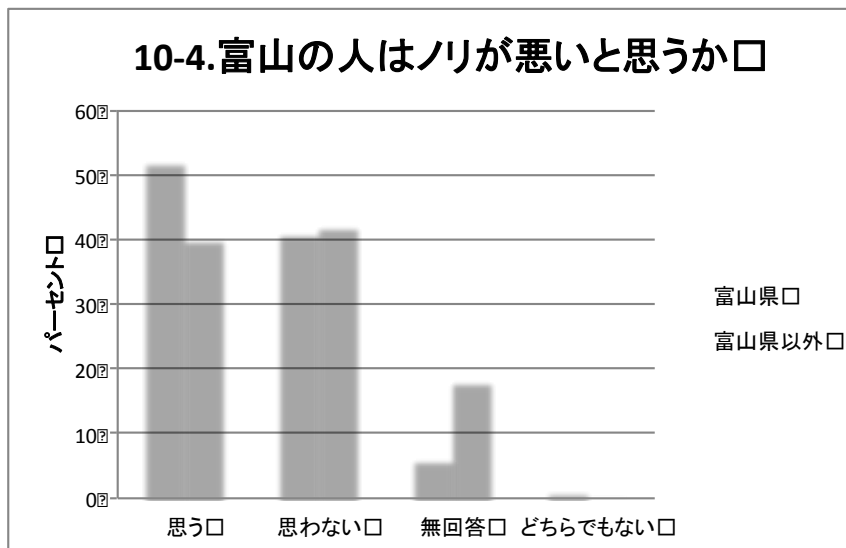
	思う	思わない	無回答	どちらでもない
男	119 (54%)	80 (36%)	20 (9%)	1 (0%)
女	246 (49%)	217 (43%)	34 (7%)	6 (1%)



Q10「富山の人にはノリが悪いと思うか」を出身地別に示したのが以下の表 10-4、グラフ 10-4 である。「富山の人にはノリが悪いと思う」人の比率は、富山県外出身者よりも富山県出身者の方で高いことがわかる。その主な理由は、富山県外出身者における無回答の比率が高かったためである。無回答の比率が富山県外出身者で高かったのは、富山県人について詳しくは知らない県外出身者にとっては、当該質問そのものが唐突に思われ判断に困ったためではないかと予想される。

表10-4

	思う	思わない	無回答	どちらでもない
富山県	331 (52%)	260 (41%)	39 (6%)	7 (1%)
富山県以外	34 (40%)	35 (42%)	15 (18%)	0 (0%)



なお、Q10「富山県の人にはノリが悪いと思うか」について、「そう思う」と回答した人の理由として以下の自由記述があった。()内は回答数。複数回答あり。

まじめ (過ぎる)・固い(67)、人の目を気にする・人見知り(20)、控えめ・消極的・引っ込み思案(19)、恥ずかしがり・内気(18)、人前で感情を表さない・表情が乏しい(14)、おとなしい(10)、暗い・陰気(9)、反応が少ない・鈍い(8)、自分がそうである(6)、関西人と比べて(6)、勤勉(6)、県民性(5)、心の余裕がない(4)、気候(4)、なんとなく(4)、冷めている(3)、冗談を言わない(3)、すぐに言葉が返ってこない(3)、ユーモアがない・ユーモアを美德としない(2)、コンサート会場・試

合会場での反応(2)、遊び心が不足(2)、慎重(2)、閉鎖的(2)、ツッコミを理解しない(2)、見栄っ張り(2)、ノルまで時間がかかる(2)、性格(1) (以下、回答数の1を省略)、周りに左右されやすい、立山連峰に囲まれている、その先が続かない、素直、話題が少ない、芸能が発展していない、ノリに合わせることにストレス、TVに映りたがらない、素直でなくへ理屈を言う、都会の人と比べて、言われたことがある、保守的、排他的、奥ゆかしい、他県に比べて、学生時代の富山出身者を見て、教育県、深読みしすぎ、自由がない、笑いの場面・情報量・伝達量が少ない、軽く見られたくない、笑顔が少ない、人の話をよく聴く、心に火がつかない、昔の教育により、周りに合わせる、周りに笑わない人が多い。

一方、Q10「富山県の人にはノリが悪いと思うか」について、「そう思わない」と回答した人の理由として以下の自由記述があった。()内は回答数。複数回答あり。

自分の周りの人はノリが良い(29)、個人によって違う(16)、おもしろい人は多い(9)、反応が遅いだけ・ノリが遅いだけ(5)、普段そう感じたことはない(4)、笑う時は笑う(3)、富山県民は元気・きときと(3)、気心が知れば楽しく会話する(2)、表現はうまくないがノリはいい(2)、関西人がすごいでいい(2)、他県と比較できない(2)、全国的にそれほど悪くない(2)、昔はそうだったが今はそうでもない(2)、若者のノリはよい(2)、無理にノリを意識する必要はない(1) (以下、回答数1を省略)、地域差がなくなってきた、よく話をする、恥ずかしがり、立川志の輔の活躍後良くなった、意外と表情豊かである、東京の人などに比べれば、富山県出身のお笑い芸人もいる、ノリの良さは県境と無関係、ノリの良し悪しの定義がわからない、富山弁はノリがよく聞こえる、富山ならではのノリがある、結構ノリは良い、富山の人をよく知らない、初めて聞いた、最近富山の映画の撮影が多い、表立って見せないだけ、TPOを重視。

(11)「最近、一番大笑いをしたこと」

Q11「最近、一番大笑いしたこと」を自由記述で回答してもらったところ、以下のものであった。()内は回答数である。複数回答あり。

友人との会話・友人の言動(82)、テレビを見て(50)、孫との会話・孫の言動(46)、家族との会話(29)、思い出せない(多すぎてという場合も含む)(22)、(あまり・特に)ない(15)、自分が失敗したとき(13)、人との会話(13)、酒席・パーティーで(11)、「笑点」を見たとき(11)、子どもの言動で(10)、勘違い・言い間違い(に気づいて)(10)、職場(での会話)(7)、演芸場・コンサートへ行って(7)、友人のギャグ・モノマネ(6)、ビデオ・DVDを見て(5)、学校の授業・学外研修で(5)、世間話・たわいない会話(4)、夫・妻の言動(4)、立川志の輔の落語(4)、本を読んで(4)、川柳で(4)、他人の失敗・勘違い(4)、小学校・孫の運動会で(3)、ゴルフのプレーで(3)、芸人の芸を見て(3)、笑いヨガ(3)、スポーツで(2)、愛犬の仕草(2)、ペットと遊んで(2)、旅行先で(2)、送別会で(2)、吉本新喜劇(2)、講演で(2)、先生の話(2)、祭り・盆踊り大会で(2)、ラジオを聞いて(2)、何人かで集まったとき(2)、昼夜逆転して(1) (以下、回答数1を省略)、介護の母親の言動、自分の好きなことで、家族がある病気にかかって、ここでは書けない、ボケたおばあちゃんの言動、私は若いので箸がころがってもおかしい、結婚式の余興、方言、同僚の結婚話、お客との会話、患者さんとの会話、老人の乳のことで、このアンケートで、変な顔に写るアプリで、いつも笑っている、宇宙が誕生したこと、マンガを読んで、インターネットを見て、思い出笑い、キュウリを切っていて、自

分の変顔、めでたい事があって、勝手に一人で、夢の話題で、もの忘れした時、映画を見て、トランプで子どもに大勝して、おばあちゃんのなまりで、包括支援センターの寸劇で、幼児の言動、何気ない事で、ダジャレを聞いて、娘のメールを読んで、前を走る車の屋根にネギ、ゲームをしていて、マッサージをしてもらって、ラインの写真。

3. まとめ・考察

Q4、Q5の結果から、10代の若い人たちは他の年代に比べ日頃よく笑うことがわかる。また女性の方が男性よりも笑うということもうかがえる。また、富山県民は他県民に比べて笑うことが少ないという結果が出たが(表 4-4、表 5-4)、これは回答者のうちで60代以上の占める割合が、他県出身者に比べて富山県出身者において高かったことに因ると思われる。

Q6の結果からは、どの年代においても人との会話の中で笑いが多く生まれていることがわかる。50代以上の年代ではビデオ・DVDの利用率は高くない。今回、笑うためにインターネット、SNSを利用するという回答は少数であったが、これらの項目をアンケートの選択肢の中に予め組み込んでおけば、若い世代でより多くの回答数があったかもしれない。また、中高年の世代では、映画館、演芸場、劇場で笑うと回答した人の比率が低かった。これは富山県内で笑いの芸を定期的に提供している場が不足していることを示しているのであろう。

Q7「好きな芸人・喜劇俳優」については、テレビのお笑い番組が多いことを反映して、自由記述の回答は百花繚乱の感があった。テレビなどのメディアに登場する頻度の高い芸人や番組司会に携わる芸人が支持されていることがわかった。また、今回のアンケートの回答者には年齢層の高い人が多かったために、年配に支持されている芸人が上位に位置する結果となった。立川志の輔が上位にランクインしているところが富山ならではの結果であった。

Q8では「笑いは・・・」に続く言葉を自由に記述してもらった。笑いが心身の健康によいことは周知の事実となっていることがわかる。また、笑いが幸せな人生にとって大切であり、人生を豊かにする必要不可欠な要素であるとイメージされていることがわかった。

Q9「好きな笑いの分野」では、若い年代ではコントの人气が高く、年齢が増すほど落語人气が高くなっている。若い世代に対して落語の魅力を伝えていくことが必要であろう。

Q10「富山の人はノリが良くないと思うか」という質問項目をあえて設けたのは、筆者が日頃相手にしている富山出身の学生たちが、真面目で比較的小となしいという印象をもっていたことによる。しかし10代の若者たちは、富山県民は決してノリが悪いわけではないと思っていることが印象的だった。年齢の高い人の方が、富山県民のノリが悪いと感じている。富山県民のノリが悪いことの理由としては、真面目、固い、控えめという県民性に由来すると考えている人が多かった。少数意見の「笑いの場面・情報量・伝達量が少ない」は参考にすべき点がある。一方で富山県民のノリは悪くないと考えている人も多かった。その理由として、おもしろい人は多い、ノリの良し悪しは個人の問題であり人それぞれである、最初はノリが悪いが段々とよくなっていく、という意見が多く見られた。

Q11「最近、一番大笑いしたこと」の結果からは、友人・家族・孫などと交流する中で大笑いが生まれていること、テレビを見ていて大笑いしたこと、自分や他者の失敗・勘違い・言い間違

いで大笑いが生まれていること、などがわかった。真面目な富山県民にとって、失敗から生まれる笑いは、日常うまく活用したいところである。

富山県民が普段の生活で、大阪の人のようなノリ・ツッコミをしようとしても無理があろう。富山の県民性が真面目で勤勉であることを踏まえつつ、過度に真面目でシャイにならないように、真面目ではあっても人柄からユーモアがにじみ出るような方向性が、富山県民には向いているのではないだろうか。